

【キーワード】

〔施設種別〕 高齢者施設 障がい者施設 子ども施設 住宅
 〔運営主体〕 市区町村 法人 NPO 個人 〔補助金〕 内閣府 国土交通省 厚生労働省
 〔建物形式〕 1棟単体型 複数棟集合型 団地型 〔建物状況〕 新築 増築 改修 一部改修 既存
 〔対象者〕 高齢者 障がい者 子ども ファミリー 多世代



写真1. 全容写真

区画整備事業によりリニューアルした公園。豊島区と地元住民により運営されており、「サード・プレイス」の理念が組み込まれている。マルシェやワークショップなど、公園内からグリーン大通りも巻き込んだイベントが定期的に行われており、地域の人だけではなく、池袋を訪れた人など、多くの人で終日賑わいを見せる。

■施設概要

所在地：東京都豊島区南池袋2-21-1

施設種別：公園

総合プロデュース・公園設計：ランドスケープ・プラス

建築設計：久間建築設計事務所

施工：西武造園（Ⅰ期）、かたばみ工業 松本建設（Ⅱ期）

敷地面積：7818.50㎡（うち複合施設建築面積：265.27㎡）

運営主体：任意団体「南池袋公園をよくする会」、豊島区

運営開始：2016年4月2日



写真2. 敷地周辺 国土地理院より

池袋駅から徒歩五分。グリーン大通りから一本入ったところに位置している。南東側は墓地で、他周辺には雑居ビルが立ち並ぶ。

■公園リニューアルの経緯

戦災で焼け野原になった跡地に区画整理事業により生まれた公園。治安の悪さから地元の人も寄り付かない状況が続いていたが、2006年ごろの変電設備の整備を機に再整備の計画を開始した。2011年の東日本大震災では帰宅困難者であふれたことから防災の観点も入れつつ、国際アートカルチャー構想の中に位置づける形で再整備計画がすすめられた。

■運営について

地域の活性化を図ることを目的に豊島区だけではなく、近隣住民や学識経験者、カフェ事業者などで結成した任



写真3. 公園の風景1

満開の時期の写真。戦後まもなくまで根津山と呼ばれる雑木林が広がっていた名残で、2500本にも草木が植えられている。



写真 4. 公園の風景 2
人工芝を利用した芝生広場。



写真 4. 公園併設のカフェ
実際はトイレや管理所なども入っている複合施設で、防災拠点施設として帰宅困難者対策の備蓄倉庫なども備えている。

意団体「南池袋公園をよくする会」とともに運営を行っている。公園利用のルールや公園の更なる魅力向上に繋がる活動を話し合っている。

■利用者について

時間帯により利用者の特徴が異なり、朝は始業前の社会人や散歩に訪れた親子連れなどが多い。昼頃にかけて昼食を食べに学生や会社員などの周辺の人が集まってくる。日が暮れ始めると学校終わりに寄り道に来た学生やが目立つ。

参考文献

- 1) 豊島区公式HP (<http://www.city.toshima.lg.jp/340/shisetsu/koen/026.html>) 2020年12月6日参照
- 2) 南池袋公園案内 (http://www.city.toshima.lg.jp/340/shisetsu/koen/documents/160715_minamiikebukuropark_1.pdf) 2020年12月8日参照
- 3) 南池袋公園, 『新建築』2016年7月号, p.40-p.45
- 4) 国土地理院 (<https://maps.gsi.go.jp/#16/35.726900/139.713950/&base=ort&ls=ort&disp=1&vs=c1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f0>) 2020年12月6日参照

(以上、作成者：東京電機大学 太田ひとみ 2020.12.08)

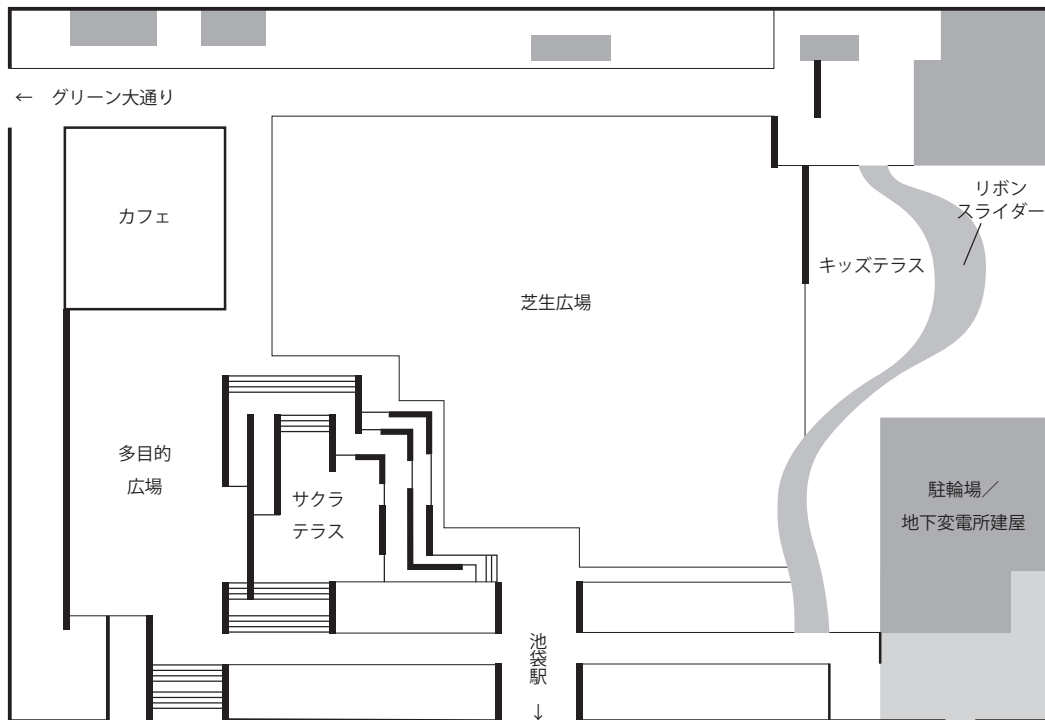


図1. 平面ダイアグラム 南池袋公園案内より

公園中央に大きい芝生広場が広がる。キッズテラスはリボンスライダーを利用する児童で溢れ、既存の桜をそのままにしたサクラテラスは読書や食事をする人など様々な目的で活用される。